



令和元年9月29日(日)総合教育センターにおいて、第4回かながわ教育学講座が開催されました。今回のテーマは「いま求められる授業」です。新学習指導要領が示され、小学校は来年度より本格実施となり、中学校、高等学校も順次移行されます。いま求められる授業の在り方や、児童・生徒に育てたい力について講義やグループワークを通し、学びました。

第4回 かながわ教育学講座

いま求められる授業

今回は、めざすべき教職員像の三要素の一つである「授業力」について取り上げ、「授業の在り方」や「育てたい力」について学び、「授業づくり」について考えました。



はじめは、総合教育センター教育人材育成

課 向原 俊幸 指導主事、橋本 瑠美 指導主事、稲葉 祐樹 指導担当主事がそれぞれ講師を務め、特別支援学校の教員志望者は北3B、小学校は大講堂、中学校又は高等学校は中講堂に分かれて講義を行いました。

大講堂の講義では、「これからの社会はさらにグローバル化が進み、情報化、技術革新等で加速的に変化して、複雑で予測困難な時代になっていきます。このような社会の変化が今回の改訂の背景にあります。これからの未来を作っていく子どもたちには、社会が大きく変化しても、自ら切り開いていけるような力をつけていかなくてはなりません。そして、知識及び技能を習得するだけでなく、未知の状況にも自分の知識や技能を駆使して対応していく思考力、判断力、表現力をつけること、学んだことを人生や社会に生かそうとする力をバランスよく育てていくことが重要です。また、子どもたちにこのような力をつけるためには、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業をしていくことが必要であり、いま求められる授業なのです。」と話がありました。

また、主体的・対話的で深い学びが実現されるような授業にするためには、子どもたちに育てたい力は何か、そしてその力を育てるためには、どのように単元を組み立てていけばいいのか、さらに1時間の授業の中でどのような力をつけていくのか、授業の在り方を考えていかなければならないと説明がありました。

その後、大講堂では小学校第5年生 国語科の授業、中講堂では中学校第2学年理科の授業、北3Bでは特別支援学校 知的障害教育部門 高等部第2学年 美術の授業の動画を視聴し、講義の内容を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」と「授業づくりの要素(教材・教具の工夫、学習環境の整備、学習規律の徹底、教員の投げかけや受け止め方、板書など)」の2つの視点から、授業の良いところを探してメモを取りました。講義の後に動画を視聴することで「いま求められる授業」について、より具体的に考えることができました。

グループ活動



はじめに、前半の講義の中で視聴した動画のメモをもとに、自分の考えを整理しながら付箋に書きました。その後、班で意見を交換しながら「主体的・対話的で深い学び」と「授業づくりの要素（教材・教具の工夫、学習環境の整備、学習規律の徹底、教員の投げかけや受け止め方、板書など）」の2つの視点で模造紙にまとめる活動を行いました。受講者は授業の良いところをたくさん見つけ、お互いに活発に意見交換し、考えを深めていました。



また、班での活動も4回目ということもあり、どの班も慣れた様子で進めていました。模造紙はイラストを効果的に用いて、どのように考えをまとめていったのか、伝える相手に分かるように描いていました。また、教室での授業場面を模造紙に再現して考えを深め、まとめている班もありました。発表においても、役割分担をし、ポイントを絞って発表したり、聞き手の目をよく見て発表したりしていました。そして、発表が終わると自然と拍手が起こり、お互いの発表を聞き、認め合う雰囲気がありました。このかながわティーチャーズカレッジが、学校と同じように、受講者一人ひとりの学びの場であるとともに、受講者がお互いに関わり合うことで、さらに学びを深めることができる場になっていることが感じられました。

受講者の感想から

- ・ 授業づくりはとても大変であり、教師の仕事が本当に難しそうだと感じた。
- ・ 動画視聴をすることで、先生の工夫や児童の姿が見えて、分かりやすかったです。